



全国のドライバー2,000人に聞く、タイヤの空気圧点検実態調査

あなたはご存知ですか? 月に1回以上の空気圧点検 自分では足りていると思っているのに

「月1回以上の空気圧点検」できている方は2割台・・

お出かけ前には、タイヤの空気圧点検をお忘れなく

一般社団法人日本自動車タイヤ協会(通称: JATMA/会長 清水隆史)は、4月8日を「タイヤの日」とし、「月に1度はタイヤの空気圧点検を」と呼び掛けし、さまざまな啓発活動に取り組んでいます。今回は、全国のドライバー2,000人を対象に、タイヤの空気圧点検に関する実態調査を行いました。

調査結果のサマリーは以下の通りです。

ドライバーの6割以上が空気圧点検はできていると回答するも、4人に3人は「月1回以上の点検」を知らない

- タイヤの空気圧点検の頻度、6割以上のドライバーが「足りている」(63.3%)と回答。
- しかし、「月に1回以上の空気圧点検が推奨されている」ことをドライバーの72.5%は知らない。
- 空気圧点検を「月1回以上実施」は4人に1人以下(24.3%)。

ドライバーの4人に1人は「走行距離が短いから空気圧点検は必要ない」と誤解したまま

- 空気圧点検不足を自覚している理由は「チェックする方法が分からない」(47.2%)がトップ。
- 「あまり距離を走ることがないから」(25.6%)空気圧点検をしないという誤った認識を持つドライバーが4人に1人も。
- 年間走行距離が短いほど月1回の空気圧点検をする割合が低い。5千 km 未満22.2%1万 km 以上30.0%。

1年以内にパンクを経験した人は100人に4人!

● ドライバーの 4 人に 1 人以上がパンク経験者、直近 1 年以内でも 4.1%は 1 年以内にパンクを経験! 走行距離に関係なく多くのドライバーがトラブルを経験、日常点検の習慣化を!

「燃費を重視」8割超も、エコ意識があるのにもったいないドライバーが多数

- 「燃費」を気にするドライバー82.5%。自動車購入時の選定理由は「燃費」が1位、買う前も買ってからも「燃費」重視。
- 増税からエコ&節約意識が UP、エコカーへの関心が高まっている。もっと手軽な方法で節約できるのが空気圧点検。
- タイヤの空気圧を適正に保たないと、せっかくの燃費性能が悪化。手軽なエコ方法として空気圧点検をぜひ!

長距離運転前には必ず空気圧点検を!

- 2019年~20年にかけての年末年始に長距離運転をした人のうち61.9%が何も点検せずに運転!
- タイヤ販売店やガソリンスタンドなどで空気圧点検ができるので、お出かけ前には必ず空気圧点検を。

<調査概要> ■実施時期:2020 年 2 月 20 日(木)~2 月 22 日(土) ■調査手法:インターネット調査

■調査対象:自分で車を運転する20代~60代のドライバー男女2,000人(週3回以上運転する方と週1回~月1回程度運転する方を、半数ずつ割り付け回収)



日本自動車ジャーナリスト協会会長・菰田潔さんに聞く

タイヤの空気圧点検の重要性

調査結果詳細は、次ページからご覧頂けます。 ※本調査では、小数点第2位を四捨五入しています。そのため、数字の合計が100%とならない場合があります。

本件に関するお問合せ先

一般社団法人日本自動車タイヤ協会 総務部(広報・渉外担当) 大高・髙橋・畑中 電話 03-3435-9095 FAX 03-3435-9097

全国のドライバー2,000人に聞く、タイヤの空気圧点検実態

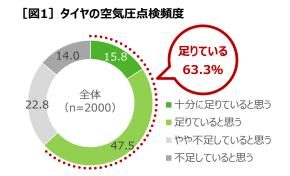
□ あなたは大丈夫? 空気圧点検について63%が「足りている」と自信を持っているが、

4人に3人は空気圧点検の正しい頻度を知らず、月1回チェックができている方は24%しかいない

自分で車を運転する20代~60代のドライバー男女2,000人を対象に、タイヤの空気圧に関する調査を行いました。

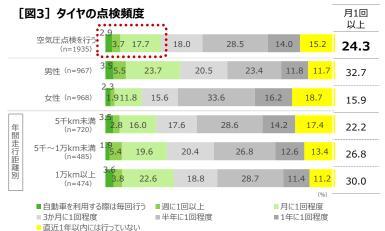
まず、タイヤの空気圧点検の頻度について聞くと、「十分に足りていると思う」15.8%、「足りていると思う」47.5%となり、全体の63.3%がタイヤの空気圧点検の頻度は「足りている」と答えています [図1]。

しかし、タイヤの安全のために「月に1回以上の空気圧点検が推奨されていること」については、全体の4人に3人が「知らない」(72.5%)と答えており、女性ドライバーでは84.6%とさらに高くなっています [図2]。



そこでタイヤの空気圧点検を行うと答えた1,935人に、タイヤの空気圧点検の頻度を具体的に聞くと、「月に1回以上」と答えた方は24.3%しかおらず、「直近1年以内には行っていない」と答えた方が15.2%もいました。タイヤの空気圧点検を月に1回以上点検する割合は、男性(32.7%)に比べ女性(15.9%)は半数近く少なく、年間走行距離別に見ると、走行距離が短いほど月1回以上の空気圧点検をする人が少なくなっています[図3]。この結果から、日常的に車に乗る人より週末などの限られたときだけ車に乗る人の方が、タイヤの空気圧点検をまめに行っていないことが推測されます





[図1]でタイヤの空気圧点検の頻度が不足していると答えた735人にその理由を聞くと、「自分でチェックする方法がわからない」(47.2%)が最も多く、次いで「面倒だから」(36.9%)と答えた人も少なくありません。また、4人に1人は「あまり距離を走ることがないため」(25.6%)と間違った認識を持っています[図4]。

長距離のドライブに出掛けるときはもちろん、タイヤの空気圧は普段から点検し、タイヤの傷やひび割れ、溝の深さ、ホイールの点検、ボルトやナットの緩み、スペアタイヤの点検なども行いましょう。

[図4] 自身のタイヤの空気圧点検頻度が不足していると思う理由



ドライバーの4人に1人が「タイヤのパンク・バースト」を経験

□ ドライバーの25人に1人は1年以内にパンクを経験!

これまで運転中に体験したトラブルを聞くと、「バッテリあがり」(39.6%)に次いで多いのが「タイヤのパンク・バースト」で、ドライバーの27.2%が経験しています。

走行距離別に見ると、「バッテリあがり」は走行距離が短い方が経験しやすく、「タイヤのパンク・バースト」は走行距離が長い方が多くなっています [図5-1]。

直近1年での経験で見ても、「タイヤのパンク・バースト」は「バッテリあがり」に次いで多く、100人に4人(4.1%)は1年以内にタイヤのパンクを経験しています [図5-2]。

また、JAF(日本自動車連盟)「2018年度ロードサービス救援データ」でも、高速道路での出動理由のトップは「タイヤのパンク、バースト、エアー圧不足」(36.97%)で、全体出動の4割近くを占めています。

普段から乗る人も週末にしか乗らない人も、走行距離 にかかわらず、車に乗る前の点検が重要です。

[図5-1] これまでに経験した運転中のトラブル



[図5-2] 直近1年間に経験したの運転中のトラブル



● JAF調べ2018年度ロードサービス救援データ (高速道路/四輪 年間73,154件)

	故障内容	件数	構成比(%)
1位	タイヤのパンク、バースト、エアー圧不足	27,043	36.97
2位	燃料切れ	9,080	12.41
3位	事故	5,460	7.46
4位	過放電バッテリー	4,409	6.03
5位	発電機/充電回路	1,779	2.43

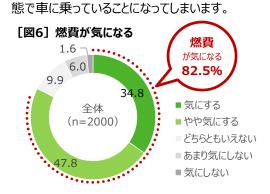
燃費で選んで、燃費をいちばん気にしているのに…

□ タイヤの空気圧と密接に関係している燃費

ロドライバーの8割は「燃費」を気にし、さらに「燃費の良さ」は車を選ぶときのポイントNo.1!

次に、運転しているとき燃費の良さをどのくらい気にするか聞くと、ドライバーの82.5%が燃費を「気にする」と答えています [図6]。さらに、今の自家用車を選んだ理由を聞くと、「燃費の良さ」(37.4%)を挙げた人が最も多くなっています [図7]。

実はタイヤの空気圧は燃費と密接な関係があります。車には適切な空気圧がそれぞれ設定されていますが(空気圧の適正値は、車の運転席ドアを開いたところなどに表示されています)、空気圧が適正よりも低いと、タイヤの接地面が増え抵抗が大きくなることで、適正で走った場合と比べ多くのエネルギーが必要になり、燃費性能は低下します。タイヤの空気は、運転していても、していなくても自然に抜けていくものです。タイヤの空気圧をチェックせずに乗り続けていると、走行安全性が低下し、燃費の悪い状態を表に表していると、また安全性が低下し、燃費の悪い状態を表に表していると、またないでは、アレスストになってはない。





エコや節約意識も高まっているのに…

□ 消費税増税でエコや節約意識が一層UP! 手軽に今すぐできる空気圧点検もお忘れなく

2019年10月1日より消費税率が8%から10%に引き上げられましたが、このことにより生活意識や態度がどのように変化したかを聞きました。すると、「ハイブリッドカーやエコカーへの関心が強くなった」(38.8%)、「自動車の燃費を意識しエコドライブを心掛けるようになった」(38.5%)、「軽自動車やコンパクトカーなど維持費の安い自動車への関心が強くなった」(36.2%)が上位となり、エコや節約、燃費への関心が一層高くなっていることが分かります [図8]。車を選ぶ際や運転しているとき、そしてこれからも気になるのが車の燃費です。今乗っている愛車の燃費を悪化させないためにも、月1回のタイヤの空気圧点検をお忘れなく。

38.5 36.2 ■全体 (n=2000) 38.8 40.0 30.0 20.2 19.6 19.2 17.4 16.5 20.0 10.0 0.0 うになった の移動を控えるよ 自動車での長距離 使わなくなった を燃費のために コーション ようになった高いタイヤを選ぶなるべく耐久性の 関心が強くなっハイブリッドも た い気持ちが弱ま 自動車を保有した (%) うのカ

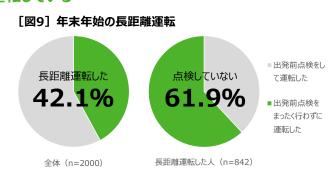
[図8] 消費税増税により意識したこと

ドライブ前の空気圧点検を忘れずに!

□ 去年の年末年始、62%の方は点検せずに長距離運転している

昨年の年末年始の長距離運転について聞くと、長距離運転を した方は42.1%でした。このうち、「出発前点検を行ってから運転 をした」方は38.1%で、61.9%の方は「出発前点検をまったく行 わずに運転をした」と答えています [図9]。

燃費のためだけでなく、何よりも安全のために、出発前のタイヤ点 検を行いましょう。



□ 手軽にできるタイヤの空気圧点検 ガソリンスタンドやカー用品店などに立ち寄ったついでにぜひ!

最後に、ガソリンスタンドやカー用品店でタイヤの空気圧点検をしてもらえること知っているかと聞くと、ガソリンスタンドやカー用品店で空気圧点検をしていない人の87.3%が「知っている」と答えました [図10]。知っているにもかかわらず点検をしていないということは、タイヤの空気圧点検がそれほど重要ではないと捉えているからだと推測されます。

しかし、適正ではないタイヤの空気圧状態では燃費が悪化し、 パンクやバーストといった非常に危険な事故の原因にもつながりま す。タイヤの空気圧点検は手軽にできる安全確認です。月に1回 の空気圧点検を習慣化しましょう。

[図10] タイヤの空気圧点検は ガソリンスタンドやカー用品店でできる



自動車ジャーナリスト協会 菰田会長に聞く、タイヤの空気圧点検の重要性

ロ月1回以上の空気圧点検 実現のためにも「2週に1回」を心がけて

今回の調査では、タイヤの空気圧点検を月1回以上行っているドライバーは2割しかいませんでした。なぜ空気圧点検を行わないのかと言えば、点検をすること自体を知らない、もしくは、しなくてもいいと思っている人が多いからでしょう。

実際、タイヤの空気圧が多少減っても、見た目や乗り心地で分かる人はなかなかいません。例えば、タイヤがくぎを踏んでも、すぐに走れなくなるわけではなく、徐々に空気が抜けていきますが、すぐに運転には影響しないケースもあります。そのため気が付かずに数日走っていると、タイヤの劣化が激しくなり、気が付いた頃にはボロボロになって使い物にならなくなるわけです。パンクして徐々に空気が抜ける現象、いわゆるスローパンクチャーが多々あります。自分では気が付かなくても、空気圧を測ることでスローパンクチャーも発見でき、タイヤが傷まないうちに修理することもできます。

タイヤの空気圧点検をすることは、タイヤを大事に使うためだけではなく、車の燃費やコーナリング、乗り心地にも影響します。 そして何よりも乗る人の安全に関わる問題です。タイヤの空気圧は月1回以上の点検が叫ばれていますが、個人的には「2週間に1回」を心掛けることで、月1回が実現できるようになるのでは、と思っています。

ロ タイヤの空気は抜けるもの 「マイエアゲージ」を常備して空気圧測定を習慣化しよう

距離を走らないから点検はしないという人少なくないようですが、何もしなくてもタイヤの空気は抜けていくものです。自転車のタイヤが穴が空いていなくても自然と空気が抜けるのと同じこと。「車は高性能だから、空気が自然と抜けるなんて…」と思っていませんか?確かに車の性能はどんどんよくなって、暖機運転も不要になり、エンジンオイルの交換時期も長期化し、メンテナンスも手軽になったことから、タイヤもメンテナンスフリーと勘違いしてしまうのかもしれませんが、ゴムの性質上、タイヤの空気は抜けます。

空気圧はガソリンスタンドなどで測定してもらえますが、私のオススメは空気圧が自分で測れる「マイエアゲージ」を持つことです。空気圧は温度と関係し、気温が高いと気圧も高く気温が低いと気圧も下がるので、季節や気温差はもちろん、日なたと日陰でタイヤごとに違ってきます。空気圧は走行前のタイヤが冷えた状態で測定することが望ましいのですが、「マイエアゲージ」があれば乗車前にすぐに測定できます。空気圧は簡単に測れるので、乗車前測定を習慣化するとタイヤの変化が手にとるように分かるようになり、あれこれこだわりたくなりますよ。エアゲージはカー用品店などで、シンプルなものから多機能なものまで、1,000円前後から販売されています。

ロドライブ前に空気圧だけでなくタイヤまるごとチェックして

普段から運転する人も、久しぶりに運転する人も、まずは点検をしてください。タイヤに関しては空気圧はもちろんですが、タイヤの溝もチェックしてください。△マークのスリップサイン(残溝1.6mm)が出ていなければ、車検も取れて走行可能ですが、安全性を考えれば溝は深い方が安心です。溝の深さが足りないと、雨天の高速道路では要注意。タイヤが水に浮いてハンドルもブレーキも効かなくなるハイドロプレーン現象も起きやすくなります。新品のタイヤの溝はおおよそ8mm程度ありますが、私は半分程度になったら要注意だと考えています。また、タイヤはゴム製品なので、溝が残っていても経年劣化している場合があります。中古車の場合、車の製造年は分かっていても、タイヤがいつ製造されたかは案外知らないものです。タイヤの側面には4桁の数字が表示されており、後ろの2桁が製造年、前の2桁が製造週を示しています。例えば「4018」なら2018年の40週目(10月上旬)に製造されたことになります。保存状態にもよりますが、6年以上たっているようであれば交換の目安としているメーカーもあるようです。ちなみにJATMAでは、10年を目安に交換を推奨しています。

また、タイヤを同じ位置で長期間使用すると、前後で摩耗が異なる場合があります。タイヤを長持ちさせ安全に走行するためには、タイヤの位置を入れ替える定期的なローテーションなどの対応も必要です。連休の1日を車のメンテナンスの日にすることも、有意義な過ごし方ではないでしょうか。



菰田潔(こもだ・きよし)さん 日本自動車ジャーナリスト協会会長

1950年 神奈川県川崎市生まれ。自動車レース、タイヤテストドライバーを経て、1984年からフリーランスのモータージャーナリストになる。著書「ドライビングの常識・非常識―あなたの運転ここが危ない!」「カラー図解 あなたの"不安"をスッキリ解消! クルマの運転術」など執筆活動も行う。モータースクールのカリキュラム監修なども担当。

2016年から日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)会長。日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員、JAF交通安全・環境委員会委員、NPO法人ジャパンスマートドライバー機構理事長なども務める。